

征衣録：文苑

著者	芝峯
雑誌名	龍南會雜誌
巻	6 9
ページ	5 2 - 5 3
発行年	1898-12-24
URL	http://hdl.handle.net/2298/5200

宿山鹿此夜寒雨撲窓

かたきまはと結ふ夢をさへまたおとろかす村時雨哉

歸途逢時雨

ぬるゝも何か厭はん紅葉を染むるまくれの雨と思へば

秋季雜詠

鐘や箱や採集すべきものなくて草の花

鳥子繩吳より引きたり越の國

山子にとまる鴉鳴子に下る群雀

淋しさに鳴子を曳けば鳥が立つ

嚙りつく柿に二枚の齒を印す

小石擲つや憂然とぞて霧の谷

野は更けて孫子が籠に呻鳴く

濱盡くる所紅葉の社何の神

思出に蛤願ふ老雀

河内に遊ぶ

また青き蜜柑盗むや河内道

秋冬混題

蕃椒や列座の人の鼻の汗

紫川

草江